

事業評価表

京都府南丹市
作成日：平成21年05月12日

(平成20年度実施事業)

事業CD. 0107103 - 07000

事業名	都市と農村との交流事業	事業運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等				所管部署名等
細事業名		委託先	<input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 外郭団体 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> 教育機関 <input type="checkbox"/> 自治会・地縁団体 <input type="checkbox"/> その他 ()				美山支所 産業建設課 担当：中野
事業区分	事業分類：(B)ソフト事業 政策体系CD：247 <input type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 時限事業（平成 年度迄）	関連法令・条例等	観光立国推進基本法、エコツーリズム推進法				

【事業の概要】

①施策で目指す目標との関連付け
 地域特性を活かした田舎体験で、都市と農村との交流を推進することで地域経済の活性化と、交流人口増加による地域振興を目標とする。

②事業を実施する必要性
 市内の観光入込客は、京阪神等の近場から、日帰りで訪れる中高年が中心で、観光消費額に結びつきにくい現状がある。そこで新たな客層の開拓として、遠方から宿泊を伴う、若者を対象とした誘客としてここ数年修学旅行に力を入れている。ここ数年修学旅行を遊びの時間としてではなく、普段できない経験、見られないものを見るなど学習の一環として利用されることが増えてきており、観光と体験の両方が求められてきている。本市は全国的に修学旅行を受け入れる京都市から移動可能な距離にありながら全く違う雰囲気有している。「京都市内で観光」「南丹市で田舎体験」とセットでの誘致がしやすく、また、競合する地域も無い。修学旅行誘致により「田舎体験料金」「宿泊」「食事」「特産品販売」など、直接的な地域への経済効果なども大きく、都市と農村との交流事業の必要性は高い。

未実施事項
 概ね計画どおり実行できたが、今後受け入れ範囲を拡大していくためには広域的な組織づくりが必要だと考える。

④他にも効果が見込める施策があるか
 ・第2章3 南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる
 ＝ 宣伝活動により特産品の販売拡大に貢献できる。
 ・第2章5 伝統文化を継承する
 ＝ 田舎体験を通じて、より多くの人に伝統文化を知ってもらうことができる。

【前年度の評価を受けて改善した点等】

【事業費の推移】

		単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21予算	平22計画
財源内訳	決算額または計画額	千円		827	568	512	512
	うち一般職、嘱託職、臨時職給与および共済費等	千円		0	0	0	0
	使用料・手数料等	千円		0	0	0	0
	国・府支出金	千円		0	0	0	0
内訳	地方債	千円		0	0	0	0
	一般財源	千円		827	568	512	512
職員等従事人員		人/年	—	—	0.30		
人件費		千円	—	—	1,739		
事業費総額		千円	—	—	2,307		

【主な支出の内訳】

田舎体験用簡易テント・救命用具	282,240円
田舎体験用双眼鏡・望遠鏡・レーザーポインター	168,840円
田舎体験用釣竿	26,880円
田舎体験用合羽	17,703円

【近隣市町村の取り組み状況】

近隣市町村で同様の取り組みをしている地域無し

【所属長総括評価】

①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
 都市と農村との交流事業の一環としての田舎体験型の修学旅行は、地元の経済波及効果と活性化に大きく寄与しており、体験メニューも幅広く検討を加えた。

②当該事業のアピール事項
 ここ数年、年間5校・約500人の修学旅行生を受け入れ、地元への経済波及効果は約1千万円となっており、地元住民との交流による活性化も図れている。

③反省点、今後の展開・方向性等
 修学旅行の事業拡大を行うために、受け入れの組織体制の確立が必要である。

事業活動記録

平成20年度実施事業

政策体系CD	232	事業名	都市と農村との交流事業		
事業CD.	107103-07000	細事業名			
所管部局	美山支所	所管課	美山産業建設課	担当	中野 修

107103-07000

区分	活動内容	活動日または時期	活動結果
都市と農村との 業啓発 交流事	●修学旅行現地下見対応 次年度実施の修学旅行の現地下見の対応	6月6日 2月20日	教育旅行会社の担当者に対して 現地案内と体験紹介をしたため、 修学旅行実施決定
	●都市と農村との交流受入検討会議 田舎体験施設と都市と農村との交流の受入について検討 会議を実施	11月28日 1月15日 1月22日	
修学旅行受入	●修学旅行受入対応 新潟市立舟栄中学校	4月12日・13日	受入人数 96人
	●修学旅行受入対応 我孫子市立布佐中学校	5月14日・15日	受入人数 108人
	●修学旅行受入対応 練馬区立光が丘第2中学校	6月16日・17日	受入人数 109人
	●修学旅行受入対応 柏崎市高柳中学校0	3月11日・12日	受入人数 14人